

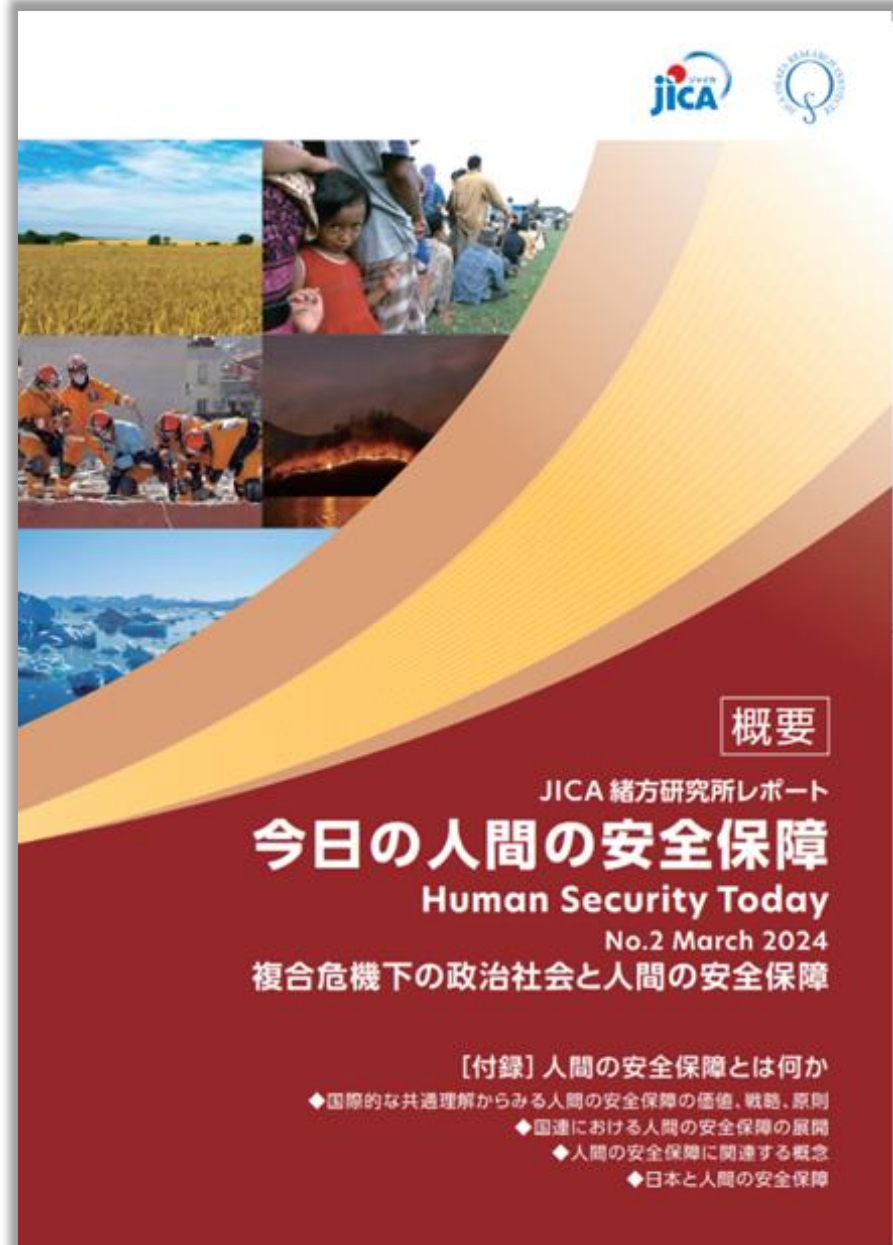
# 複合危機下の政治社会と 人間の安全保障

<レポートの紹介>

2024. 05. 30

JICA緒方貞子平和開発研究所  
研究所長  
峯陽一

# 第2号 (厚い)



# 概要版 (薄い)

# 第2号は研究員の力作論文を満載している。巻頭の理事長対談は「人間の安全保障入門」としてお勧め

## 対談

### 複合危機下の人間の安全保障を読み解く

2023年8月2日、シンガポールの南洋理工大学のメリー・カバレロ=アンソニー教授をお迎えし、JICA 理事長の田中明彦と、世界が直面している危機の性質、人間の安全保障という概念の起源とその今日の意義、人間の安全保障の実現と推進のための取り組み、東南アジアそして世界における人間の安全保障の主流化への期待などについて対談を行いました。対談のモデレーターは JICA 緒方貞子平和開発研究所の峯陽一研究所長が務めました。



**メリー・カバレロ=アンソニー**  
シンガポール 南洋理工大学 教授

香港大学で政治学の博士号を取得した後、南洋理工大学にて国際関係論および安全保障学の教授、そして非伝統的安全保障研究センターのセンター長に就任。専門分野は非伝統的安全保障、人間の安全保障、アジア太平洋地域における安全保障及び地域主義。主要著作として *Nuclear Governance in the Asia-Pacific* (Routledge) や、*Negotiating Governance on Non-Traditional Security in Southeast Asia and Beyond* (Columbia University Press) をはじめ、著書、論文多数。



**田中 明彦**  
国際協力機構 (JICA) 理事長

東京大学教養学部卒業後、マサチューセッツ工科大学政治学部大学院にて博士号を取得。ルール大学 (ポーフム) 客員教授、オックスフォード大学セント・アントニーズ・カレッジ 客員研究員、東京大学副学長等を経て、2012年から JICA 理事長へ就任。その後、政策研究大学院大学学長等を経て、2022年から再び JICA 理事長へ就任。専門分野は国際政治学。『新しい「中世」』(日本経済新聞社)、『ワード・ポリティクス』(京房書房) ほか国際政治学に関する著書多数。2012年に紫綬章受章。



**峯 陽一**  
JICA 緒方貞子平和開発研究所 研究所長

京都大学大学院経済学研究科修士課程を修了。現在は JICA 緒方貞子平和開発研究所の研究所長、同志社大学教授を兼任。ステレンボッシュ大学客員教授。専門分野は人間の安全保障、開発経済学、アフリカ地域研究。『開発協力のオール・ヒストリー』(東京大学出版会)、『2100年の世界地図—アフリカの時代』(岩波新書)、『現代アフリカと開発経済学—市場経済の荒波のなかで』(日本評論社) など著書、編著、訳書多数。

本対談で述べられている見解は登壇者個人の見解であり、JICA や JICA 緒方研究所としての見解を示すものではありません。

る現象は、社会システムの条件次第で、より大きな被害をもたらすかもしれません。これまでの2、3年間の経験は、3つのシステムの複雑な相互作用を分析する必要性を示唆していると思います。

**峯**：田中理事長の理論的な説明は、カバレロ=アンソニー先生が示したポリクライシスやパーマクライシスと共鳴するものですね。

**カバレロ=アンソニー**：田中理事長のご説明は、複雑な危機が人間の福祉と安全保障に与える多次元的な影響を理解する上で、とても役に立つ分析枠組みを提供してくれていると思います。私たちは、多様な脅威が個人、集団、コミュニティに与える影響について議論してきました。たとえば、環境安全保障の専門家は、安全保障の概念を広げるよう求めています。ここで問題になっているのは、脅威の起源や影響だけでなく、安全保障が何を対象とするかです。というのも、気候変動や人新世に関する言説では、私たちは人間の安全保障だけでなく、環境システムの安全保障についても語っているからです。安全保障の対象が人間や人間集団だけではないとしたら、人間の行動が環境の安全保障にどのような影響を与えるかも考えなければなりません。

ですから、私たちはさまざまなシステムと、それらがどのように相互作用しているか目をつけるべきです。田中理事長の理論的な洞察が評価されるべき点は、ここにあると思います。私たちは、脅威のさまざまな発生源や、それらがさまざまな安全保障の対象に与える影響、そしてこれらのプロセスがダイナミックに相互作用するあり方について、より深く掘り下げるべきです。このような相互作用に関する研究は、政策立案者、研究者、専門家だけでなく、私たち自身のコミュニティにも役立ちますし、グローバルな課題にどのように対応すべきかをよりよく理解することにもなるでしょう。再生可能エネルギーに対する需要の増加が良い例です。この需要は、鉱物や金属に対してこれまでにない需要を引き起こし、そのことで環境に影響を与え、意図しない結果を引き起こす

かもしれません。このように、私たちは社会システムと地理的なシステムの相互作用について語るができます。さまざまな分野を横断的に考慮に入れて分析することで、私たちはより包括的な政策手段をつくりあげることができると思います。

**峯**：地球の物理システムは46億年前に形成されました。生命システムは40億年前に誕生しました。しかし、最初の人類が誕生したのはわずか30万年ほど前のことです。地球の歴史は超長期的ですが、人類は非常に短いスパンで環境に恒久的な影響をおよぼしています。人類の生存が危機に瀕していることは明らかです。カバレロ=アンソニー先生は、安全保障の対象について話されました。人間の安全保障の理論の核心には、「何の安全か」という問いがあると思います。田中理事長、トマス・ホプズの著作などの政治学の観点から、この問いについてどうお考えですか？

### 人間の安全保障の理論の核心にせまる

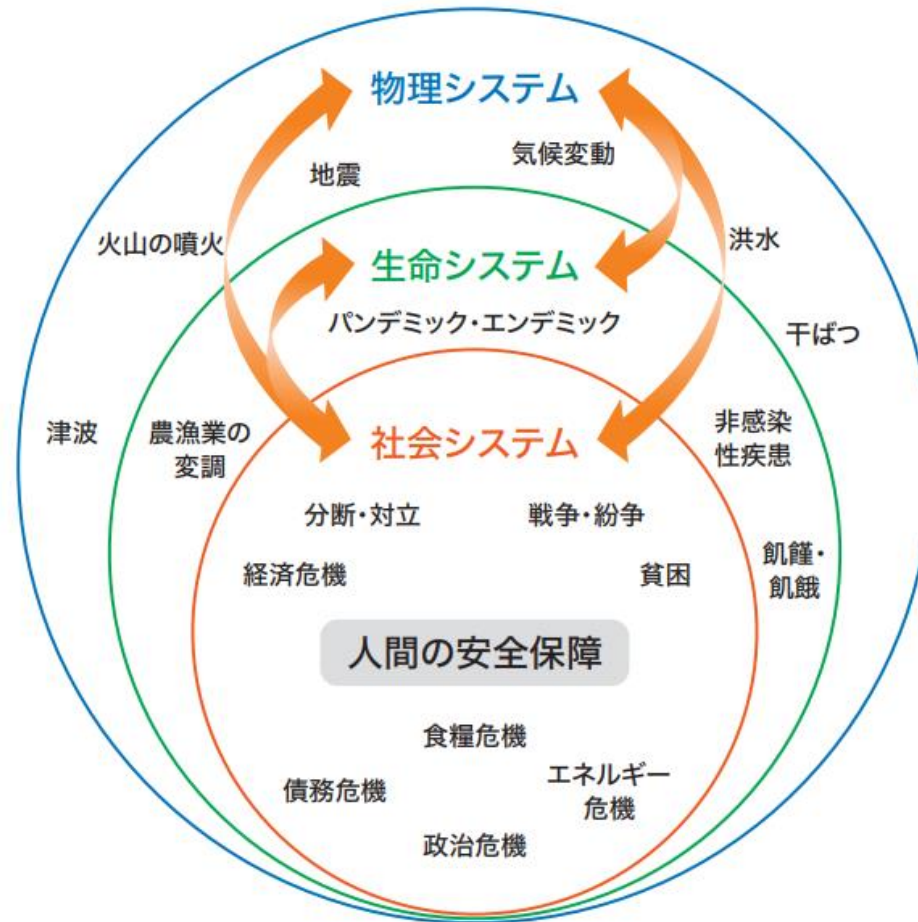
**田中**：人間は人間中心の生物だと思います。人は常に人のことを考えているので、地球システムや大気圏システムが直面している危機を考えることは容易ではないでしょう。しかし、私の考えでは、人間を中心とする安全保障観に忠実であるとしても、物理システム、生命システム、そして3つのシス



私たちは、国家の役割だけでは人間の安全保障を守るには不十分であることに気づきました。

——田中 明彦

# 特集タイトルは「複合危機」下の人間たち (Our Common Agendaも参照)



物理システム、生命システム、社会システムの観点から危機の複合性を示した図

# 「概要」版には「人間の安全保障とは何か」という付録も付いている

## 国連における人間の安全保障の展開

### 1994年

#### UNDP人間開発報告書

人間の安全保障の概念をはじめて公的に取り上げ、飢餓・疾病・抑圧等の恒常的な脅威からの安全の確保と、日常生活が突然断絶されることからの保護を掲げ、人々の安全を重視する視点を提示。

### 1999年

#### 国連に「人間の安全保障基金」設立

### 2003年

#### 人間の安全保障委員会 最終報告書

#### 「Human Security Now」(緒方・セン報告書)

2001年に国連に設置された同委員会の最終報告として、人間の安全保障を、恐怖からの自由、欠乏からの自由、そして尊厳をもち生きる自由と定義。国家、国際社会等によるトップダウン的な保護と人々や市民社会等によるボトムアップ的なエンパワメントという相互補完的な戦略を組み合わせる重要性を強調。

### 2005年

#### 世界サミット成果文書「人間の安全保障」(A/RES/60/1)

パラグラフ143において、人間の安全保障が普及され、国連総会において、人間の安全保障の概念をさらに議論することを明記。

### 2010年

#### 人間の安全保障に関する国連事務総長報告(A/64/701)

人間の安全保障概念は実践的な概念であるとし、1)人びとを中心、2)包括性、3)文脈重視および4)予防指向の4つの原則を提示。

### 2012年

#### 人間の安全保障に関する国連総会決議(A/RES/66/290)

「人々の生存、生計及び尊厳に対する広範かつ分野横断的な課題を特定し対処することを補助するアプローチ」として、人

間の安全保障の共通理解についての国際的な合意がなされた。その中には、「保護する責任(R2P)」とは異なるものであり、武力や強制措置を求めず、国のオーナーシップを尊重することが含まれた。

### 2013年

#### 国連総会決議(A/RES/66/290)フォローアップに関する国連事務総長報告(A/68/685)

人間の安全保障を地域、国家、そしてサブナショナルレベルで適用する重要性を強調。また、ポスト2015年のグローバルジェンダに人間の安全保障を包括的フレームワークとして盛り込むことを提言。

### 2015年

#### 持続可能な開発目標(SDGs)

人間の安全保障の「人々を中心におく」という原則が、「誰一人取り残さない」という言葉と共に包摂性の観点から盛り込まれた。

### 2022年

#### UNDP特別報告書「人新世の脅威と人間の安全保障」

人新世の時代における人間の安全保障の戦略として、保護とエンパワメントに加えて「連帯」を提示。3つの戦略のかけあわせにより、「人間の行為主体性(agency)」を高める重要性を示す。

### 2024年

#### 人間の安全保障に関する国連事務総長報告(A/78/665)

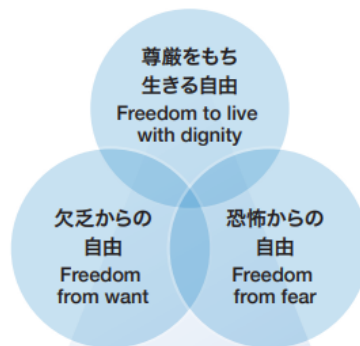
今日の複合危機下の世界を念頭にSDGs達成を加速するツールとして、人間の安全保障の重要性を強調。保護とエンパワメントに加え、「連帯」が、人間の安全保障達成のための戦略の一つとして位置づけられた。また、人間の安全保障に関わる世界各地の実践を紹介している。

# 「人間の安全保障はわかりにくい」とも言われるが、国連基金のハンドブックなどを参考に、簡単な図をつくってみた

## 価値

### Values

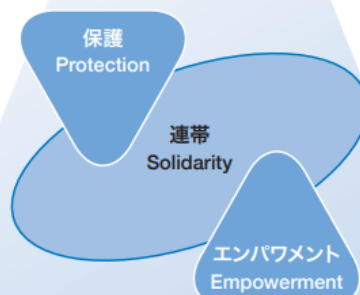
人間の安全保障を構成する価値の領域



## 戦略

### Strategies

人間の安全保障の実現のために組み合わせる戦略



## 原則

### Principles

人間の安全保障の取り組みにおいて重視すべき視点



▶「人間の安全保障」は、人びとが恐怖と欠乏により命と暮らしを脅かされることなく、尊厳をもって生きられる社会を目指す。

▶人間の命、暮らし、尊厳を損なう脅威に着目し、人びとを守るために脅威に対応する。

▶今日の世界が直面する危機は、様々な脅威が同時に発生するだけでなく、それらが互いに連鎖し、複合的な危機として、より深刻な影響を人々に及ぼすという特徴がある。

▶上からの保護は、政府や国際機関、NGOなどのステークホルダーが、個々の力では対処しきれない深刻かつ広範な脅威から人々を守ることに。

▶下からのエンパワメントは、影響を緩和・対応・予防するために、一人ひとりが本来持っている力を発揮し、人びとが自発的・集散的に選択する力を強めること。

▶連帯は、社会、世代の間、人と地球との間の相互依存関係を認識し、現在および将来の課題を乗り越えるために、多様なアクターが水平的に協力すること。

▶保護、エンパワメント、連帯の戦略に基づく取り組みは、人びとのレジリエンスを強化することにつながる。

▶人びと中心は、脆弱な立場に置かれた人々の視点を大切にすること。

▶包括性は、人々の視点から多様な問題の相互関係をとらえ、専門分野の違いを超えて包括的に対処すること。

▶文脈重視は、各地域の固有の状況や文化を尊重すること。

▶予防指向は、脅威により人々の状況が悪化する危険性(ダウンサイド・リスク)を直視し、未来の危険に対応しようとする。

# 隣接する概念との対比や年表も

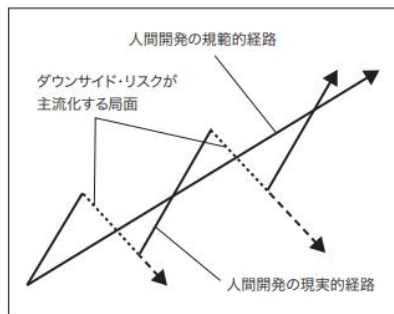
付録 人間の安全保障とは何か

## 人間の安全保障に関連する概念

### 人間開発

#### Human Development

一人ひとりの選択の幅を広げることで、皆が価値ある人生を送れるようになるプロセス。1990年のUNDP『人間開発報告書』で提唱された。人間開発は進歩と増進を主眼とするが、人間の安全保障は、状況が悪化する危険性(ダウンサイド・リスク)が主流化する局面に対処し、社会を再び人間開発の経路に乗せていこうとする努力だと考えられる(図を参照)。



### 人権

#### Human Rights

人として生まれた者には、一連の基本的自由としての人権が認められ、促進されなければならない。ただし、特定の時点の特定の社会がどのような自由を基本的人権として保護し、推進すべきかという問題は残る。人間の安全保障は、人間が極度の不安定に向き合う具体的状況を示すことで、基本的人権として認められるべき自由が何かを指し示すことができる。

### 人間の尊厳

#### Human Dignity

一人ひとりの人間に尊厳が侵されたい価値が内在しているという考え方。自己と他者のかけがえのない価値、すなわち尊厳を尊重する態度が万人に求められている。国連憲章や世界人権宣言にも盛り込まれており、「誰も取り残されない」社会をつくるというSDGsの理念の基礎でもある。人間の安全保障が求める三つの自由の一角を占める。

### 国家の安全保障

#### State Security

国家および国民の安全を保障すること。各国の政策だけでなく、諸国の同盟関係、国際機構の集団安全保障などで確保される。第二次世界大戦後の植民地の独立により、主権国家の安全保障の枠組みが地球規模に広がった。この枠組みを補完するものとして人間の安全保障が生まれた。

### 社会保障

#### Social Security

社会が個々の住民を病、失業、事故などの個別的なリスクから守り、最低限の生活を保障する制度。政府が責任をもつが、相互扶助的な側面もある。日常生活のリスクを想定しているが、大規模な災害や疾病、紛争時にも、人間の安全保障を補完する役割を担う。

## 日本と人間の安全保障

日本は人間の安全保障を外交の柱の1つに掲げ、国際社会において人間の安全保障を推進するための様々な取り組みを行っている。

### 1998年

小渕首相が政策演説において(「アジアの明日を創る知的対話」)、人間の安全保障を日本外交の柱として位置付け、人間の安全保障基金設立を表明。

### 2000年

国連ミレニアム総会において森首相が人間の安全保障を日本の外交の柱に据えることを宣言し、人間の安全保障委員会の設置を呼びかけ。

### 2003年

人間の安全保障委員会が最終報告書を発表。政府開発援助大綱に人間の安全保障の視点が基本方針として明記される。

### 2012年

日本政府が国連総会で人間の安全保障の定義に関する決議を共同提案。

### 2015年

政府開発援助大綱から開発協力大綱への改訂に伴い、人間の安全保障が「開発協力の指導理念」として明確に位置づけられる。

### 2022年

国連開発計画が「人間の安全保障特別報告書」を発表(日本政府が支援)。

### 2023年

開発協力大綱改定に際し、「我が国は、引き続き、人間の安全保障を我が国のあらゆる開発協力に共通する指導理念に位置付ける」と明記。

## JICAと人間の安全保障

JICAは、人間の安全保障を組織のミッションのひとつに掲げる日本の開発協力機関である。2003年に、人間の安全保障委員会の共同議長だった緒方貞子氏がJICA理事長に着任して以来、組織全体で人間の安全保障に資する開発協力を実践している。

### 緒方貞子氏について

2003年10月から2012年3月まで初代理事長として掲げる日本の開発協力機関である。2003年に、人間の安全保障委員会の共同議長だった緒方貞子氏がJICA理事長に着任して以来、組織全体で人間の安全保障に資する開発協力を実践している。

### JICA 緒方貞子平和開発研究所

平和と開発のための実践的知識の共創をビジョンに掲げ、開発途上国が直面する課題について政策指向の研究を行い、世界の平和と開発への知的貢献を目指している。

#### 3つの基本方針

- 国際的な学術水準の研究を行い、積極的に発信する。
- 現場で得られた知見を分析・総合し、事業にフィードバックする。
- 人間の安全保障の実現に貢献する

▶人間の安全保障に関する研究、取り組みについてさらに知りたい方はこちら →



# これから

レポートの定期刊行、そして、このあと高須大使からご報告がある国連の力強い動きをふまえて、緒方研では次の三つの方向の活動を考えている。

それぞれのキーワードは、

1. 科学
2. 物語
3. 指標

# 科学

- 複合危機：物理・生命・社会システムの危機が複雑かつ動的にからみあって、人類の生存を脅かす
- 地球の危機：物理化学、人間との接点の工学
- 生命の危機：医学、農学、生態学
- 人間社会の危機：社会科学、人文学
- 危機が互いに原因となり結果となる。複雑な全体を解明する知の営み
- 何が真実かを示す（自然と社会の）科学。何が善いことかを示す人文学。
- 人間の安全保障の研究に自然科学の参加を促したい



# 物語

- 抽象的な価値の議論も大切だが、それだけでは人々に意義が伝わらない
- 「人間の安全保障を考慮することで、現場ではこんなことができる」という事例を集めて、メッセージを伝えていく
- 内輪で納得するだけでなく、懐疑論の側にいる人たちも巻き込んで議論する素材が必要
- 人びとを中心に、危機を乗り越え（危機に備え）、連帯し、未来を切り開いた事例
- 事務総長報告で豊かに紹介
- JICAの事例収集

# レポートの論考を素材に議論するウェビナー・シリーズも開始

協力機構 緒方貞子平和開発研究所

開発のための実践的知識の共創

## JICA緒方研究所レポート「今日の人間の安全保障」第2号発刊 記念ウェビナー・シリーズ第1回 複雑化する栄養問題へのマルチセクター／マルチステークホルダー・アプローチの実践による対応

掲載日：2024.05.20

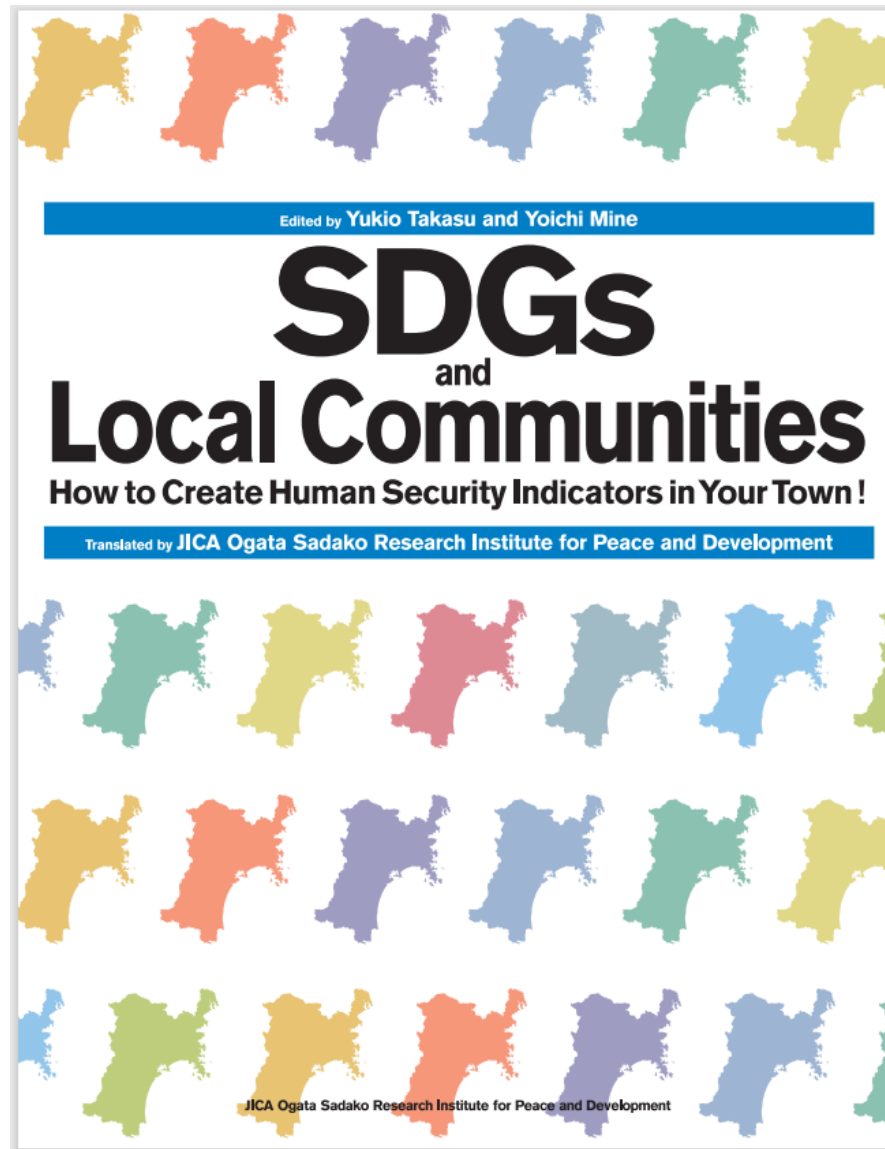
セミナー | #イベント #人間の安全保障



# 指標

- 5月8日にニューヨークで「サブナショナル指標」をお披露目するシンポジウムを実施した（UNHSU、UNDP、JICAが共催）
- 尊厳、客観と主観、そして現場に下りていく
- アフリカでの人間の安全保障指標の作成も支援したい（レポート2号花谷論文）
- 人間の安全保障の考え方をふまえつつ、SDGsのコア指標を整理する研究活動もある
- さらに、独自にJICAの人間の安全保障指標を考案し、事業に役立てていく計画もある

# 人間の安全保障指標（NPO法人「人間の安全保障」フォーラム）緒方研が英語版刊行



# おわりに

- JICAは強力な二国間ドナーとして多国間主義に貢献するとともに、多国間への目配りによって活動を普遍化・強化したい
- その試金石としての人間の安全保障の取り組み
- 組織内での知見の二十年の蓄積と、若手の力！  
(国連事務総長報告をめぐる国連総会の議論を  
新入職員にも紹介)